

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100043		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホームはこべ 南棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年開所より、地域の皆様との交流や絆を大切に運営、事業展開しております。COVID-19(新型コロナウイルス感染症)予防対策も徹底し感染を防ぐ事が出来ており、引き続きご利用者様が安全安心に生活出来る場所のご提供をまいります。ご利用者様おひとりおひとりとご家族様に寄り添う介護提供を心がけ、QOL向上、自己決定の支援、生活スタイルの尊重に重きを置き、スタッフ一同邁進してまいります。家族様にも適切にご利用者様の状態を報告しオープンな風通しの良い関係を心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年10月26日		

1. 地産地消を心がけ、地元の店から食材を調達し(コロナ禍以前は利用者と買い物に出かけていた)、三食の一品一品を利用者の希望や嗜好に応じた手作りの食事を提供し、インスタント食品や冷食・缶詰類は、ほとんど使用されていない。コロナ禍であっても地域との付き合いは継続されており、野菜やお米などの差し入れ、事業所の畑で栽培した作物等、季節ごとの新鮮な食材も活用している。
 2. 協力医と職員との連携のもと、利用者が「最期までその人らしく生きること」を支援している。家族にはケアプラン策定の都度、「重度化・看取り指針」を用いて、事業所で提供可能な看取り介護を説明し、理解促進にも努めている。コロナ禍の現在でも、看取り期には家族からの希望があれば、居室内での面会や宿泊も可能な態勢となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について話す事があり、日々のケアの中で意識しながら心がけ努めている。	開所時に策定した4点の理念に、より地域に密着した視点を加え、計5点の理念を基軸として日々のケアにあたっている。玄関・ホール等に掲示し、利用者・来訪者とも共有している。縮小コピーした理念を全職員が携帯し、会議などでも理念内容を確認、振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行の為、交流は難しい状況だが、町内へ買い物に出掛けた際、声をかけて頂き、施設の事を気にかけて聞いて下さる方や電話下さる方もいた。	コロナ禍でも地域との付き合いを継続しており、野菜やお米などの差し入れ、家庭菜園の手伝いなどを頂いている。職員と地域住民とは顔なじみの関係にあり、日常の声かけに加え、介護の相談を受けることもある。利用者も市広報や防災無線などにより地域の情報を共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、施設の面会等制限させて頂いているが、相談があれば、対応出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、開催は行っていないが、定期的に、運営推進委員の方にはホームの状況、その時々々の写真を載せたはこべ通信を送付していた。	コロナ禍で文書開催とし、会議資料は入居者概要・行事報告・研修状況・防災訓練等を分かりやすくまとめている。委員は関係機関と家族等10名で構成され、委員からの助言で利用者の事故防止に活かされた実践事例もある。写真満載の広報も送付し、事業所の理解促進にも努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居されている利用者さんの事などで、担当の方と連絡を取ったり、わからない事があれば電話で問い合わせ等し、協力関係を築くようにしている。	担当課とのやり取りはコロナ禍により電話やFAXが中心となっている。日常業務の手続きに加え、生活保護利用者も積極的に受け入れる等、細やかな連携態勢を築いている。また、職員が市主催研修会の講師を務める等、良好な協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症予防の為、身体拘束委員会の開催は難しいが、感染状況を確認しながら開催して、身体拘束廃止に向けて職員が意識しながら心がけケアに努めている。	委員会や研修のほか、全体会議や申し送りの中でも拘束を要しないケアについて随時、検討・確認をしている。スピーチロックにも配慮し、不適切な声かけには、職員が互いに注意し合える関係構築と適時、所長や管理者が助言等を行っている。玄関は夜間のみ施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、学ぶ機会は難しかったが、職員同士日々のケアの中で意識しながら努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度利用した方がいたが、今後必要な方がいたら、制度を利用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分に説明をして、わからない事があれば、電話やいつでも問い合わせして頂き、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんと日々コミュニケーションを図り信頼関係を築けるように努めている。家族の方は、電話等で、意見や要望を伺い、運営に活かせるように努めている。	家族来訪時や受診状況などを電話報告する際に意見等を伺っている。利用者の意見に応えながら献立を作成したり、行事を立案する等、運営に反映させている。看取り期には、家族からの希望があれば居室内での面会や宿泊にも応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、コミュニケーションを図り、要望や意見を聞き、運営に努めている。	管理者は、職員の出勤時及び日常業務内で細やかな声かけをしている。会議などでも発言しやすい環境づくりを心がけ、事業所全体で良好なコミュニケーション形成に努めている。職員の希望や家庭環境等にも配慮し、勤務調整や有給の取得促進にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に応じて、職場環境、やりがいを持つように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、研修参加や勉強会の開催は難しかったが、少しずつ落ち着いた際は参加していきたいと思うが、人間的に難し所もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、感染状況を確認しながら、参加したいと思うが、難しかった。開催後の報告で、活かせることがあれば取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の納得の無い入所の事が多く、その都度職員が利用者さんの話を傾聴、難しい時には、本人に寄り添い、思いを感じるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から、その都度話を伺い、居室担当者を中心に、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、その状況に応じて、対応出来るように話を伺い努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中で、コミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡した際に、本人の状況を報告したり手紙を書ける方には、書いてもらい、写真と一緒に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、中々出掛ける事は難しいが、馴染みの美容室や理容店の方に来て体温測定をして頂き、少しの時間での会話を楽しんでい頂いている。	今まで利用していた理美容店の方々が来訪し、一人一人の希望に応じたカットとともに会話を楽しむ場を継続している。家族等からの電話には子機を手渡して、ゆっくりと話せる環境や手紙のやり取りでは利用者の声を職員が代筆する等、関係が途切れないよう細やかな支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを持ちながら、職員が寄り添い支えられるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、町内等で会った際等、話しをしたりして、その後の関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族にその都度話を伺い、伝える事が困難な方には、本人に寄り添い、意見や思いを把握出来るように居室担当を中心に努めている。	日々の関わりや利用者の仕草などから思いを推察している。入浴ケアでは、利用者の声を傾聴できる貴重な場ととらえ、得た情報は職員で共有し、ケアに活かしている。帰宅願望などがみられるときも、無理に制止せず、敷地内を散策する等、利用者の気持ちに寄り添ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族にその都度話を伺い、伝える事が困難な方には、本人に寄り添い、意見や思いを把握出来るように居室担当を中心に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりのペースにて、職員の都合で1日1日の過ごし方を決める事がないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の状況に応じて、現状に応じた、介護計画作りに努めている。また、本人の思い御家族の思いを大切にしている。	職員・家族等からの意見を十分取り入れ集約し、短期目標の期間を新規入居は1ヶ月、以降は3ヶ月を基本としてプランを策定している。居室担当者を中心にモニタリング状況をまとめ、ケース検討会議のほか、定時ミーティングでもケア提供内容の課題を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノート、申し送りノート、介護記録、業務日誌等で、情報を共有し活用しているが、口頭での申し送りになっている事もあるが、介護計画に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、活かせるように努めている。看取りの時、御家族に宿泊して頂いたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出等困難だが、ホームで色々行事を計画して、楽しい時間を過ごせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科、その他の医療機関の相談があれば、対応出来るようにしている。その後の報告する事があれば、電話で報告している。	入居時に受診先について話し合い、現在、利用者全員が24時間対応の協力医を選択し、通院或いは月2回の訪問診療を受けている。病状に変化がある時は、法人の看護師から家族へ連絡している。また、治療が必要な利用者には歯科医師及び歯科衛生士が訪問し、適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師に、状態、変化があれば報告して対応、休日や夜間等でも体調不良時に連絡体制が出来て、指示を受け、主治医に連絡して対応出来る。24時間オンコール体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師より、医療機関との連絡を取り、情報を共有している。入院、退院時には、医師、家族、ソーシャルワーカー、当看護師と密に情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期になった場合、早い段階で話し合い、普段より看護師より詳しく家族の方に説明して情報共有して支援に努めている。	入居時、指針に基づいて説明し、介護計画見直しの度に、家族の意向確認をしている。また、コロナ禍ではあるが、終末期は、家族の面会及び希望があれば宿泊をしていただき、家族と共にチームで支援をしている。職員の研修は、法人看護師の実践から取り組み方や適切なケアを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時等、情報を共有して対応出来るように努めているが、定期的に学べる場が確保する事が艱難だった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症予防の為、地域の方や消防署の方に参加して頂いての訓練は難しかったが、通報訓練、緊急連絡網の確認等を行った。感染状況を見て、全体での訓練実施を予定している。	法人全体で、年1回消防署立会いの総合防災訓練や通報訓練、職員連絡網確認等を行っている。コロナ禍前は、総合防災訓練に地域住民の参加があったが現在は自粛している。また、業者による年2回の法定点検には職員も立ち会い確認をしている。米1年分・缶詰・水・オムツ・毛布等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーに配慮して、対応に十分注意しながら努めている。また、言葉の理解や表現が困難な利用者にも傾聴の心をもつようにしている。	一人一人の人格を尊重した対応に心掛け、職員間で不適切な言葉かけをした場合はお互いに注意しあうなどプライバシーの尊重に心がけている。重要書類は、金庫やキャビネットに保管し、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺い、伝える事が困難な利用者さんには、本人の思いに寄り添い対応出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり、ひとりのペースに応じて、無理なく過ごして頂けるように努めている。消灯時間もかなり伸ばして理解を示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームを使用している利用者さんもあり、入浴前おしゃれ染めをする方もいる為、その時に応じ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節ごとの旬な物を使用したり、野菜の筋取りや皮むき等、職員と一緒にやっている。食事の時「初物だわ」と喜んで、いつも以上に話しが盛り上がる事もあった。	地元の店から食材を購入するほか、差し入れの野菜や事業所の畑の収穫物を活用し、毎日担当職員が同じメニューにならないよう献立を作成している。利用者は、野菜の下処理やテーブル拭きなどできる範囲で手伝っている。誕生日のホールケーキや夕食に刺身を提供し、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量をチェック表に記入して、ひとりひとり職員が把握している。好みの飲み物を提供している。介助が必要な方にも介助支援を行っている。むせ込みやすい為トロミ調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後に、声掛けを行い、口腔ケア表にチェックして行っている。介助が必要な方には介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早目に声掛けを行い、チェック表を確認しながら行っている。排泄が可能な方には、出来るだけトイレで出来るように介助を行っている。	排泄パターンと定時誘導及びしぐさに気を付けながら排泄の自立支援を行っている。また、オムツは業者で一括購入する等経費軽減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量を把握して、食事メニューにも配慮して便秘の予防の対応を行っている。また、乳製品を提供して、下剤を服用されている方には、調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前、バイタルチェックを行い、体調を確認しながら、週2回は、必ず入浴を行っている。状態に応じて、清拭行う事もある。	入浴は、週2回を基本としている。現在、重度化が進み、シャワー浴やかけ湯をしている利用者が多く、病状により入浴できない場合は清拭する等清潔保持に取り組んでいる。入浴は、利用者が職員と1対1でゆっくり話ができる時間なので、ゆったりと楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで居室で休んで頂き、こまめに巡回様子観察を行っている。夜間になると、精神不安定、幻聴、幻視、大声等ある方もいる。眠れない時は、ホールで休んで頂き、眠くなったら居室に誘導行う方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとり、処方箋を確認しながら把握して処方の変更があれば、必ず業務日誌、個人ノートに記入して確認してもらっている。また、看護師に報告、確認していた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり、生活歴、出来る事を把握して、塗り絵、編み物、新聞たたみ等を行っていた。行事食や流しそうめん、時代劇、相撲、歌謡曲等流し楽しまれていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出や面会等難しい状況だったが、今後、感染状況が落ち着けば、以前のように、外食、ドライブを予定している。	コロナ禍で外出を自粛しているため、庭で流しうめんを行ったり、室内でのお楽しみ会で魚釣り大会などのレクリエーションを取り入れるなど、利用者の気分転換を図っている。秋は、庭での芋煮会のほか、菊の名勝地へのドライブを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者さんが、少しのお金を所持されている。欲しい物がある時には、職員が代わりに買って来たり、家族の方に買って頂く事もあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族の方の都合に合わせて電話したり、贈り物があった際は、お礼の電話をして話をする事もあった。請求書送付時写真を送付、娘さんより絵手紙が届いた際は返事を書いてもらう事もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりやすく、トイレやお風呂に目印を貼ったり、月ごとに飾りつけをして、季節を感じれる工夫をしている。	ホールに、市の文化祭に出展した共同作品の穀物アートやだるま張り子、牛乳パックで作ったトラ、編み物等を飾り楽しめるように支援している。職員は、室温を調節しながら、手すりの消毒や換気などコロナ感染予防対策に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士、気の合うテーブルに座ってもらい、話しを楽しんでいる。また、居室にテレビを持ち込まれて、好きな番組を新聞でチェックされ観られてる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者さんが使いやすいように、家具等配置している。また、自分で塗った塗り絵、習字、孫さんの写真、娘さんからの絵手紙、家族の写真を飾っている。	居室には、使い慣れた寝具や家具、テレビを持参し、家族と相談しながら使い勝手良く配置を決めている。また、壁に、習字や塗り絵等の自分の作品や家族・孫の写真を貼り、その人らしい部屋となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの居室に分かりやすく、ネームプレート、見やすい大き目のカレンダーにしたり配慮している。		